

# 令和3年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立串本古座高等学校 学校長名：左近 晴久

めざす学校像  
育てたい生徒像

豊かな心と確かな学力を身につけ、個性の伸長をはかることで、持続可能な地域や社会の形成者として貢献できる人間を育成する。

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 基本的な生活習慣の確立と基礎学力の向上
	2 キャリア教育の充実
	3 自主活動の活性化
	4 地域の教育資源を活用した、特色ある教育活動の充実

中期的な目標

地域と共に歩む学校として、串本町・古座川町との連携を密にしながら、将来の地域を担うグローバル人材の育成に努めるとともに、地元6中学校からの生徒入学率アップ及び全国募集生徒の増加を図ることで、募集定員の確保をめざす。

学校評価の結果と改善の方策の公表の方法

学校運営協議会や育友会総会等を通じて関係各位に結果を知らせるとともに、本校ホームページにおいても公表する。

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価					学校関係者評価	
重点目標					令和4年 2月18日 実施	
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	年度評価(3月31日現在)	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	生徒全体としては比較的落ち着いており、生徒間の小さなトラブルはあるものの、大事には至っていない現状である。 しかし、日々起こるそれら小さなトラブルを軽視せず、生徒の様子を常に観察し、微妙な変化を敏感に感じ取り、早急かつ丁寧な対応をしていくことが重要である。特にSNSに係る生徒間のトラブルへの啓発活動を含め、多様な指導方法が必要とされる。	○身だしなみやマナー面で、学校において適切な言動がなされているか。 ○校則や社会規範を守ることがキャリア形成に繋がるのだという意識が高まっているか。 ○SNSの利用について、外部専門機関等の協力も得て生徒の意識向上が図られているか。	○学期始めから1ヶ月の期間で集中的に全職員で校門指導を行い、生徒の登校の様子に注意を払う。 ○始業式時に服装・頭髪点検を行い改善を促す。 ○1学年4月に外部講師を招き、制服の正しい着用についての身だしなみセミナーを実施する。 ○交通安全に係る講話とテストの実施 ○情報モラル、薬物乱用に係る講演会の実施 ○JR・警察・青少年センターとの協力による電車マナー向上の啓発活動(マナーアップキャンペーンへの参加) ○毎月2回の交通指導	○頭髪・身だしなみ指導にかかる生徒数の減少及び規範意識の醸成、遅刻生徒の減少 ○服装・頭髪違反があった場合に速やかに改善がなされるか ○制服の正しい着こなしを1年生から定着できるか ○交通安全への理解の向上 ○情報モラル、薬物乱用における正しい理解の向上 ○乗車マナー等守られているか ○警察及び地域交通指導員との連携をはかっているか。	○身だしなみについて、密を避ける配慮を行い、服装・頭髪点検時のチェック体制を整えたうえで実施したが、実施回数が例年に比べ休校期間もあったため少なかつた。 ○SNSの利用については、人権LHRを通じて、生徒の意識向上につとめたが、トラブルはいくつかみられた。	●学校関係者アンケート結果 ・保護者や地域の方々との情報交換や意見を取り入れ生かす機会を設けているかについて、AとBが多かつた。  ・本校には他の学校にない特色があると思えますかについては、昨年度に比べAとBの評価が大幅に増加している。  ・充実した授業が行われているかについてのB評価が多い。  ・基本的な生活習慣や規範意識涵養の項目もB評価が多い。  ・アンケート全体でAまたはBの評価が昨年度に比べ増加している。  ●生徒アンケート結果  ・全体的に「そう思う」または「どちらか」というと「そう思う」の回答が多い。  ・全体的に、昨年度調査に比べて高評価となっている。  ・学校行事については、コロナ禍で体育祭が中止となった影響もあり、満足度はやや低く、来年度に向けた要望も聞かれた。
	教育課程変更後、1年次のアドバンスクラスへの希望が増えている。少しずつ学習への取組に前向きな生徒が増えており、授業全体も比較的落ち着いた雰囲気で行われている。 一方で、生徒間の学力格差は依然として顕著であり、特別支援を要する生徒も存在する中で、いかに組織的できめ細かな学習指導を確立できるかが課題である。	○大学共通テストに対応した授業の工夫がされているか。 ○家庭での主体的に取り組む学習時間を確保するなどの具体的な方策が講じられているか。 ○基礎学力確立のための各教科の組織的取組がなされているか。 ○言語活動など授業内で生徒の主体的な思考や行動を導く工夫が授業でなされているか。	○学習環境の整備(教室整理整頓・インターネット環境の充実・視聴覚教材の活用・デジタル教科書の使用) ○年間最低一回の研究授業実施による授業力の向上と生徒の言語活動を中心とした主体的な活動をさせる言語活動などの探究型の授業への取組 ○自己の考えを主張できるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上をさせる。 ○チャイムと同時の始業 ○授業評価の分析とその結果を反映した授業の実施 ○自ら考え要約し自らの言葉で的確に述べられるか。	○学習環境が十分に整備されているか ○年一回の研究授業を実施できたか ○研究授業に対するフィードバックが教科で確実に実施されているか ○生徒を主体的に動かせる探究的な授業改善への取組が教科ごとにできているか ○教員の授業開始時間に遅れはないか ○基礎力テストや実力テスト、授業評価を実施し、その結果に基づいた学習指導が授業に反映されているか ○新学習指導要領に基づいた授業改善ができていくか	○ICTを利用した言語活動教育の必要性や視聴覚教材の効果的な活用の重要性は認識しているものの、環境が整備されたが、実施度はまだまだ低い。 ○自己を表現するプレゼンの機会として学習成果発表会を実施した。 ○授業改善意識向上が早急の課題で来年度取り組む最優先項目である。	
2	大学等の進学についても一定の成果を挙げ、また年々就職希望者(公務員を含む)は増加している中で就職率も10年連続して100%を達成している。 しかし、入学者の学力は年々低下しており、個々の進路実現に向けた取組意欲も低く、自主的・意図的な行動が少ない。	自ら課題を発見し必要な情報を収集し、その課題を解決するという経験を授業だけでなく学校行事の中にも取り入れ、主体的に自身の能力の伸長を図ることができたか。	○個々に応じた、納得のできる進路実現を目指す。 ○学校の中で『働く意義』や『生き方』について学ぶ機会を設定し、自身の将来設計を具体化させる。 ○担任視点だけの進路指導に陥らないように、生徒個々の進路希望を職員全体で共有し、実現のため学校全体でバックアップしていく。 ○社会体験やオープンキャンパス、大学等の出前授業への参加機会を潤沢にし、生徒自身が自分と向き合う機会を設定する。	○各種補習、外部セミナー、模擬試験等の実施状況。 ○進路希望別学習を通じて、進路についての知識だけでなく、社会に出て活用できる技術・能力の習得。 ○模試分析会議の開催や進路カルテを導入し、生徒個々の進路目標や意識を学校全体で把握できているか。 ○ハローワークや若者サポートステーション等と連携を密にし、在学中と卒業後の生徒の進路情報を共有し、在校生へフィードバックできているか。 ○それぞれの活動に振り返りの時間を設定し、個人の記録から自己の進路意識の醸成を相対的に評価。	○就職希望生への低学年での進路意識の醸成に課題がある。 ○総合的な探究の時間や学校行事進路学習を通じての取り組みにより、主体的に探究活動を行える生徒は増加している。 ○企業体験の機会が減ったため、特に医療・福祉系の体験が出来ていない事に不安がある。	○就職希望者に対し企業研究や自己の適性を鑑みた意識付けを行い、ミスマッチのないように取り組む。 ○難関大志望者に対し、総合型選抜も含めた受験への対応の為、教員間の連携を密にした一貫した指導体制の構築に努める。 ○3年間で生徒の進路選択肢を増やし、個々に対応したキャリアプランの構築を図る。
3	生徒会が各行事において積極的な活動ができていく。CGS部においても地域との連携協力をしながら、能動的な活動がなされており、入部希望生徒が増えている。これら生徒会活動・部活動でさらなる学校活性化を図り、全生徒が積極的に能動的な活動ができるようになることが目標である。	○行事や部活動を通して自ら課題を発見しそれを解決するという経験によって、自主的に行動できる能力を養えるか。 ○個の活動から集団としての活動へと繋がる指導ができるか。 ○生徒会をはじめ、学校を盛り上げるための生徒の自主的な取り組みを促す指導ができるか。	○クラブ活動の更なる活性化に取組む。 ○体育祭・文化祭その他の学校行事において地域に向けて串本古座高校を発信する。 ○生徒会活動の活性化のため地域や他の学校との交流に取り組む。	○各クラブ活動の維持向上。 ○各行事において、地域住民の参加や町内関係機関からの働きかけを得ることができるか。 ○生徒会行事を積極的に行うことができたか。校外へのイベントに積極的に参加することができたか。	○各種行事や大会等が中止される可能性がある中、積極的に励む姿が見受けられた。 ○個の活動から集団としての活動へ繋がる指導としては概ねできた。 ○生徒会は積極的に自主的な活動を展開し、今年度も冬のイルミネーション点灯など地域に明るい話題を提供することができた。	○生徒数の減少傾向が続く状況において、クラブ活動の活性化は不可欠である。クラブ紹介やクラブ見学を充実させ100%加入をめざす。 ○生徒会活動は次年度以降も引き続き積極的な活動を展開していく。コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ、挨拶運動や各種啓発運動や地域交流などに積極的に参加していく。
4	学校設定科目等で地域資源を生かした教育を推進しているが、防災教育などでも地域との連携をさらに深め、学校教育の活性化を図りたい。また、学校の特色や教育活動等の情報を発信することで開かれた学校づくりに努め、入学志願者の増加につなげることが課題である。	○地域、家庭、関係機関等と連携した具体的な取組が行われているか。 ○学校の教育活動が適宜外部に広報されているか。 ○地域の人材を効果的に活用できているか。	○防災委員会を核とした、生徒の「自助、共助、公助」意識の向上を図る防災教育の実施。 ○地域協議会やくろしお共育サポーターと連携し、地域独自の教育活動誌を推進する。 ○「学校案内」や生徒の全国募集に係る案内チラシ等の広報資料の充実と、教育活動についての広報の実施。	○災害発生時に適切な判断や行動ができるよう、防災スクールや避難訓練をととして意識の涵養が図れたか。 ○地域をまるごとキャンパスにして、教育活動が行えたか。 ○地域の人材を活用することで高校生が町づくりに参加し、地域貢献ができたか。 ○より充実したオープンスクールの実施や、ホームページの随時更新等を滞りなく推進できたか。	○防災スクール、JR西日本との合同避難訓練は中止となったため、JR主催による防災講演を企画したが、コロナウイルス感染症拡大に伴い実現することができなかった。 ○防災避難訓練については例年どおり実施した。	○避難訓練では、これまでの取組みをさらにステップアップし、一次避難場所だけでなく二次避難場所までの避難訓練の実施などを検討する。 ○地域との連携をさらに強固なものとするために広報活動も含め、さらなる情報発信に努める。